

生駒市食育推進会議 第1回会議録（要旨）

1. 日時 平成19年9月5日（水）午後1時30分～午後4時
2. 場所 セラビーいこまメディカル棟3階大会議室
3. 議事内容
 - （1）委嘱状交付
 - （2）市長挨拶
 - （3）委員及び事務局紹介
 - （4）食育の概要について
 - ・内閣府作成「食育のはなし」放映
 - ・畿央大学 健康科学部健康栄養学科 南 幸 学科長の講演
 - （5）会長・副会長選出
 - （6）案件
 - ①計画策定に係る会議の進め方について
 - ②市職員によるワーキング報告
 - ③「食育」に関する意見交換
 - ④その他

■食育に関するアンケートの調査票に関する質疑応答

- ・ 調査票の構成が一般的だが、生駒市ならではの質問は入っていないのか。また、年齢や職業を問う等して、回答者の属性による結果の比較はしないのか。
- ・ 調査票の回収率はどの程度であれば、結果に妥当性があると判断するつもりなのか。
- ・ 小学生の調査票におやつ回数を記入していない理由は何か。
- ・ 生駒市の食育を語る上で、給食は重要な位置づけだと思うが、それに関する質問がないのはなぜか。

⇒ 事務局の回答

- ・ 設問については奈良県の食育計画や他の調査と比較できるようなものとし、他都市で行った調査結果と比較分析する中で生駒らしさを発見したいと考えている。また、属性については、調査票の冒頭でフェースシートを設けており、年齢や性別、一緒に住んでいる家族について訪ねている。これらの属性ごとの詳細な分析を行う予定である。
- ・ 最近行った市の調査では回収率が50%であったこともあり、今回の調査では回収率60%を目指したいと考えている。
- ・ 小学生の調査票におやつ回数を尋ねる質問項目が入っていないのは、調査票の量を減らすことを優先したためである。対象が子どもであることをふまえて、回収率を上げるためにそのような判断をした。
- ・ 小学生の調査票の中に給食に関する設問を入れていないことについては、調査票の対象者のすべてが公立の学校に行っているとは限らないためである。また、給食については、現在別のところで検討を行っており、その結果なども盛り込んでいく予定である。

■ワーキング報告に対する意見

- ・ 中学生で牛乳の残量が多いというのが気になる。骨密度の測定とアンケートを年間10～20回程度オープンでやっているが、その結果を追跡していくと、女子の場合は11～12歳までにたくさん牛乳を飲んでいたら60歳でもよい結果となっている。男性は、それよりも年齢を重ねてから牛乳を飲んでも補えるようだが、女子は11～13歳までにきちんとカルシウムを摂取しないと後に影響が出る。
- ・ 給食の残飯を減らすにはどうすべきかということも考えて頂きたい。
- ・ 骨密度は、女性は男性に比べると低い。骨密度が低いと将来的には寝たきりになってしまうこともあるので、子どものうちにしっかりカルシウムを溜め込むのは非常に大切である。
- ・ 中学校では、小学生ほどは指導がない。小学校では、先生が「牛乳を飲みましょう」と指導していたが、中学校ではそれが無い。アレルギー等あって飲まない子もいれば、飲まない子の分まで飲む子もいる。
- ・ 地産地消がないとあるが、近商では、生駒市内の農家をお願いをして、できたての野菜

を販売している。この野菜がよく売れており、市民の市内産の野菜への関心は高いと考えられる。

⇒ 事務局の回答

- ・ 地産地消に関しては、市の方でも、教育委員会、給食センター、青少年関係、産業振興課、健康課、児童福祉課、企画政策課で担当課長会を組織しており、今後取り組みを考えていきたい。
- ・ 委員会のメンバーで、中央卸売市場や学校給食、農業の現場を見学するような機会をもってみてはどうか。

⇒ 事務局の回答

- ・ 時間が可能であれば検討していきたい。
- ・ 中央卸売市場では、子どもへの調理実習をする場合に食材を提供するという取り組みを10年前からやっているが、なかなか普及しない。業者は、そのような場や機会を提供しようという考えはもっているが、消費者の方が書類の手続き等をネックとしてなかなか活用しない。消費者側の努力も必要ではないだろうか。若い人に入ってもらい、うまく活用する方法はあると思う。
- ・ 健康づくり推進員連絡協議会では、夏休みに親子の料理教室を2回やっている。また、学童保育児童（あすか野小、真弓小、北小）3校を対象に料理教室を実施し、魚をさばいて調理をして食べるということをやっている。それをきっかけに命の大切さを学んだり、魚を食べるようになる子どももいる。そういう活動を広げていきたい。

■学校現場での実態

- ・ 学校現場でも食に関する全体計画をつくって教科指導とどう絡めていくかということを検討している。真弓小学校には今年から栄養教諭が配属されている。食育が言われるようになる前から、保護者への啓発、給食センターの見学会、食に関する指導をやっている。
- ・ 給食の残量については、給食センターで残量調査を実施している。各学校で残量が多い場合には、減らすための取り組みを行っている。中学生の女子の場合は、皆に合わせる傾向があるので、リーダー的存在の子につられて、誰もそれを食べないということもある。
- ・ 朝食の欠食などの問題は地域によって問題の深刻さが異なる。最近、ある小学校で調査をしたら、3学年の約200名のうち、食べていないのは7名であった。保護者は、とても関心の高い方と無頓着な方の二極化しているように感じる。食育について知りたい保護者ほど無頓着である。
- ・ 塾に行っている子は不規則な食事になることが多い。帰りが遅いと孤食になることもあ

る。朝食の欠食が問題となっているが、朝食を食べさえすればよいのではなく、規則的に食事をとることが重要である。

■食育推進計画の策定について

- ・ 離乳食も昔は手間をかけて作っていたが、今では売っていて簡単に手に入る。時代が変わっていく中で、あらゆる世代に対して生駒として何をすべきか考えていくべきである。
- ・ 食育推進法の範囲にとどまらず、日本のモデルとなるような計画をつくっていききたい。
- ・ 生駒市民といっても昔から住んでいる人、仮住まいをしている人、夜だけ帰ってきて寝ている人などと色々な市民がいる。それぞれ食に対して持っている考えは異なるはずなので、一人一人の市民に対応できるような計画にするべきだと思う。
- ・ NPO 法人「みんなの食育」が「食育コーディネーター」の認定を行っているが、この資格はどのようなものなのか。また認定されている法人か調べてほしい。

■保育園での取り組み

- ・ 保育園では、年度初めに年間食育計画表を策定し、職員の間で共通認識をもつための会議を開いている。毎月、給食会議も開いている。また、各年齢に応じた菜園活動を行っている。菜園でできた野菜を合宿に持って行ってカレーを作ったり、芋掘りの後に焼き芋パーティをしたりしている。子どもたちは、例え嫌いなものであっても、自分で作ったものを食べてみようという気になる。
- ・ あすかの保育園では、調理室と厨房がガラスで仕切られており、調理師や栄養士が調理している様子を、子ども達が見ることができるようになっている。ごはんの時間が近くなると、子どもたちがおいしそうなおいを嗅ぎつけて、「今日のご飯は何？」と聞いたたり、コミュニケーションの種になっている。この他、魚などを触る、豆の皮をむくなど、年齢に応じた調理体験を定期的の実施している。主食・副菜などをバランスよく食べるための指導、年に2回のランチバイキング、地元の農家と契約をして地産地消の実施、手作りお菓子の試食会・レシピの配布、アレルギーの子どもをもつ保護者や0歳児の保護者の相談、保護者に対して生活リズムを整えて朝食を食べるように促す啓蒙活動も行っている。

■スーパーマーケットの取り組み

- ・ 日本チェーンストア協会に加盟している店舗では、食事バランスガイドの配布、ポスターの掲示等を行っている。それ以外の個性的な取り組みとしては、自主農園の視察イベントを実施したり環境展を行っているところ、栄養士とのタイアップによりメニューの提案を行っているところなどがある。
- ・ 今、スーパーマーケット業界では、簡便食品に熱心に取り組んでいて、惣菜売り場を充実させている。食育の重要性を啓発しつつも、やはり販売戦略となると手軽さを追求し

てしまうところがある。食育の推進でスーパーマーケットでもできることがあれば連携させてもらいたいと考えている。

- ・ 手軽さを求めるのはどうかという意見もあるが、中食が広がっている中では、「何を買うべきか」や「何に気をつけて買うべきか」ということを周知していくのがよいのではないかな。

■子育て支援の現場での実態

- ・ 当育児支援グループでは、育児サークルの支援、親育ちのための勉強会、親子ひろば等を行っている。インターネットでの育児情報発信と紙面による育児情報誌の発行をしている。当会に加盟しているサークルは15サークルで、1つのサークルに30組の親子がいるが、食育に対する関心については二極化を感じている。本当に関心を持ってほしい人は無関心である。母子のカプセル状態が問題になっている。子育てが大変で食育まで気が回らないという意見もあるので、食育として簡単にできることも重視してほしい。

■予算について

- ・ 今後何かアイデアがあがった時に、市はその取り組みのための予算を出してくれるのか？

⇒ 事務局の回答

- ・ 啓発活動には予算を出すつもりでいる。実際に何らかの事業を展開する際には、事業者と一緒にやることで予算を抑えられるのではないかと考えている。

■食育の取り組みについて

- ・ こういう委員会を設置される場合、市として他県とか他市町村とかの食育の取組はどうなっているのか。また、アンケートとかにかかる予算等の方針はどうなっているのかお教えいただきたい。

⇒ 事務局の回答

- ・ 生駒市の食育推進計画を策定するため、昨年度年末から年明けにかけて企画し、その時点で予算を立てたという状況です。
- ・ また、他市、他県ですが、奈良県では、食育推進計画が策定されて事業に入っているところ。また奈良市が、我々と同じようにスタートラインについているところ。他の市は、来年度からというところ。日本全体では進んでいるところとそうでないところの格差があります。国の目標自体は、市町村の半分くらいが推進計画を立てることになっています。
- ・ 予算額については、全体で報酬・委託料等含めて200万円から300万円程度です。

以上